

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪府附属看護専門学校 自己評価および学校関係者評価結果

2025年度（令和7年度）評価

【評価尺度】0:当てはまらない 1:一部当てはまる 2:概ね当てはまる 3:十分に当てはまる
2024年度（令和7年）

大項目	中項目	評価尺度				評価内容	評価視点	自己評価(概要・今後の課題)	学校関係者評価委員の評価				
		0	1	2	3				評価尺度	コメント			
I 教育理念・目的・目標	1. 教育理念・目的の独自性	0	1	2	3	1) JCHOの使命に基づいた学校独自の教育理念・目的をもっている	JCHOの地域医療・地域包括ケアの要となる人材育成の方針を踏まえ、地域に根ざし、多職種と連携しながら主体的に計画・行動できる看護師の育成を教育理念・教育目的に明確に位置付けている。 特に、本校の教育の独自性として掲げている「自律」は、学生が自己の役割を理解し、対象者の生涯ケアや地域特性を踏まえて看護を実現できる力を育成することを意味しており、地域包括ケアシステムにおいて求められる看護師と合致している。 新カリキュラム編成にあたっては、教育理念・目的がJCHOの人材育成方針と整合しているかを改めて確認し、表現や内容の修正を行った上で、引き続き「自律」を中核概念として位置付けている。 以上より、本校はJCHOの地域医療・地域包括ケアの要となる人材育成方針に基づいた独自性や教育理念・目的に明記し、継続的に検証・改善を行っているとして評価できる。	0	1	2	3	本校の教育の独自性として掲げている「自律」について教育目的・ディプロマポリシー、そして各学年の到達目標にも提示されており、学生自身が常に意識しつつ学習と評価するシステムが構築されている。	
	2. 教育理念・目的の適切・妥当性	0	1	2	3	2) 教育理念・目的が社会の要請に対応している	社会のニーズ等を踏まえた看護専門職の育成を目指す。医療・介護等の現場から情報収集し、年一回以上教職員で検討する場を設けている。	本校の教育理念・目的は、医療・介護を取り巻く社会の変化や現場のニーズを踏まえ、看護専門職として求められる能力の育成を目指して設定されている。 また、入学式後には保護者に残った丁寧な説明を行っている。保護者に希望者は1年生では1名、2・3年生になる者概ね4〜5名が希望される。また、保護者会の後の個別面談には、こちらから必要と思われる学生に働きかけ、時には電話などで対応している。令和8年度入学生に対しては、同じように通知する予定である。また、在学生に対しては授業要綱にも記載し、実習オリエンテーションで必ず確認することや何年度も繰り返して指導のし直しも認めている。また、随時確認することが可能に共有ファイルで管理し、iPad等で確認できるようにしている。	0	1	2	3	18歳人口が減少をたどる中、受験生確保や留年率適正化のニーズを踏まえた「ダブルスクール制度」を早く取り入れており、在学生のみならず卒業後のフォロー体制も考慮している点は大いに評価できる。
	3. 教育理念・目的・目標の周知	0	1	2	3	3) 教育理念・目的・目標は、学生、保護者及び教職員に周知されている	教育理念・目的・目標は、学生、保護者及び教職員に周知されている。	教育理念・目的・目標はホームページに掲載し周知している。 また入学前（入学前オリエンテーション）や入学式説明会、また令和7年度の入学者（入学生全員出席）には、入学前・入学前オリエンテーションを実施し教育理念・目的・教育方針を伝えている。また、入学式後には保護者に残った丁寧な説明を行っている。保護者に希望者は1年生では1名、2・3年生になる者概ね4〜5名が希望される。また、保護者会の後の個別面談には、こちらから必要と思われる学生に働きかけ、時には電話などで対応している。令和8年度入学生に対しては、同じように通知する予定である。また、在学生に対しては授業要綱にも記載し、実習オリエンテーションで必ず確認することや何年度も繰り返して指導のし直しも認めている。また、随時確認することが可能に共有ファイルで管理し、iPad等で確認できるようにしている。	0	1	2	3	学生のみならず保護者の質も変化している状況の中で、保護者会を行い、また入学前・入学前オリエンテーションを実施し、保護者に希望者は1年生では1名、2・3年生になる者概ね4〜5名が希望される。また、保護者会の後の個別面談には、こちらから必要と思われる学生に働きかけ、時には電話などで対応している。令和8年度入学生に対しては、同じように通知する予定である。また、在学生に対しては授業要綱にも記載し、実習オリエンテーションで必ず確認することや何年度も繰り返して指導のし直しも認めている。また、随時確認することが可能に共有ファイルで管理し、iPad等で確認できるようにしている。
	4. 教育目標の設定と評価	0	1	2	3	4) 教育理念・目的は目標との整合性がある	教育目標は教育理念・目的と整合性があり、中長期目標も示されている。	本校の教育目標は、教育理念・目的に基づき、看護専門職として必要な知識・技術・態度を段階的に育成することを意図して設定されている。教育理念・目的に掲げる看護師像は、教育目標に具体化されており、両者の間に整合性が認められる。また、教育目標は単年度の達成にとどまらず、中長期的な視点から学生の成長を見据えた目標として位置付けられており、ディプロマ・ポリシー（DP）およびカリキュラム・ポリシー（CP）とも連携して示されている。 これらの教育目標については、新カリキュラム編成時に教育理念・目的との整合性を確認し、教職員間で共通理解を図った上で設定されている。以上のことから、本校の教育目標は教育理念・目的と整合しており、中長期目標も明確に示されていると判断できる。 また、令和6年度長期目標も明確に示されていると判断できる。	0	1	2	3	入学生の基礎学力の低下、コロナの影響も加味したところの脆弱性などによる休学率の増大に際して分析を行い、課題を明確にして、個々の状況に応じた取り組みがなされていることに期待したい。
		0	1	2	3	5) 教育目標は、育成しやすくなる人材像が具体的に表現されている	教育目標は卒業時の到達度や育成する人材像が具体的に表現されている。	3つのポリシーを令和元年度より明文化し、また教育目標を達成にむけて、コンセプトである「Autonomy・自律」をどこまで養うか確認しながら入学から卒業までの段階別到達目標（1年次〜3年次）を実現可能な学生にとってわかりやすいように学生の姿で表現している。毎年カリキュラム評価を実施し、全体を俯瞰・問題点の把握を行っている。2年の到達度は3以上の評価であり実現可能であると判断している。今後は皆が到達できるように学習意欲を高めること、自己効力感が低下している学生に対して、大阪府附属看護専門学校と連携し、レジリエンスを高める取り組みを今年度取り入れたため、評価しながら継続的に進めていく必要がある。	0	1	2	3	入学生の基礎学力の低下、コロナの影響も加味したところの脆弱性などによる休学率の増大に際して分析を行い、課題を明確にして、個々の状況に応じた取り組みがなされていることに期待したい。
		0	1	2	3	6) 教育目標が達成されている	教育目標の達成度について評価され、年1回は見直しを行っている。	教育目標の達成度の評価については実習は各領域に行い、また全体の実習を通しての到達目標も毎年評価委員会が主となり分析し学生教育委員会が発表している。また、1年〜3年までの段階別到達目標があるため、卒業時アンケート項目に反転アンケートを実施し、学生の自己評価を行っている。すべて結果が出た段階で最終評価を同年3月に行っている。R6年度の評価結果は各学年の到達目標の達成度は「達成できた・概ね達成できた」となり、教育目標は達成されている。R7年度は3月に行う予定である。	0	1	2	3	入学生の基礎学力の低下、コロナの影響も加味したところの脆弱性などによる休学率の増大に際して分析を行い、課題を明確にして、個々の状況に応じた取り組みがなされていることに期待したい。
II 教育課程	5. 教育課程の活動	0	1	2	3	7) 毎年度の教育課程の編成を検討する場が組織化されている	目的・構成メンバー・役割・機能が明記され、会議の開催が定例化されている。	会議運営要綱は会議の趣旨・目的・会議開催の時期、構成メンバーは明記し、毎年問題がないか確認している。教育活動や管理・運営に必要な会議は定例化して行っており情報共有や課題が積み出されている。また、会議の役割や書記などの担当を決め積極的に進めている。特に運営会議は定期開催であり、各年度実施は学校教育方針が決定された学期変更が必要であったが、そのような時にも実現可能な会議を開催し決定している。 大阪府附属看護専門学校と連携し、レジリエンスを高める取り組みを今年度取り入れたため、評価しながら継続的に進めていく必要がある。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	8) 教育課程は、教育理念・目的・目標と一貫性のある内容になっている	教育課程は教育理念・目的・目標と一貫性のある内容になっている。	教育理念・目的・目標は新カリキュラム作成時に「整合性」として評価し作成した。新カリキュラムの評価は、現在のところ矛盾なく整合性があると判断している。今年度は最終3月中旬に、全体の評価を行い再度確認する予定である。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	9) 教育課程は中心となる概念を明確にして構築されている	中心となる概念が明らかである。	中心概念である「人間・環境・健康・看護」の4概念を2019年の学生実習より掲げている。新カリキュラムが導入されるにあたり再度4つの概念を明確化し、修正するとともに、「教育」というキーワードを概念に加え、中心概念を明文化し、簡単に記載し実施している。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	10) 基礎分野・専門分野の考え方が明確になっている	考え方を示した文章がある。	各分野の考え方、構造図、シラバスなどは文章化し、学生実習やシラバスに掲載し、教職員にも周知し、学生にも共有ファイルで配布している。 新カリキュラムでは統合分野がなくなり専門分野に在り・統合が入り、療養の場の多様化等を勘案した組み立てを行った。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	11) 学修の到達について明確な考え方を掲げ、教育課程を編成している	学修の到達について明確な考え方を掲げ、教育課程を編成している。	現時点では、指定規則に則った修業年限、到達レベル、学習時間数であり問題ないと判断している。 新カリキュラムでは時間数に対して規則はないが、3年間で進める時間数3000時間程度と設定し、カリキュラムを構成した。年度末には各学年でDPを評価している。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	12) 単位履修の要件とその方法を明示している	履修規定が文書で表現されている。	履修条件等を見直しながら履修規定は学生実習に掲載し周知している。いつても見ることができるよう学習管理システムのMicrosoft Teamsに掲載し、より一層の周知を図っている。また、便覧の履修規定を用い学習がはば影響などチャーターや学科担当、教務主任が個別に周知徹底している。	0	1	2	3	教育課程や教育内容について常に多角的に評価し改善がなされていることは非常に良いと思う。 報告・連絡・相談という看護実践能力の前提ともなる力の不足が卒業生アンケート、在学生の実習評価、学生教育委員会においても共通していることが明らかになっており、社会人基礎力の強化に向け取り組みを開始していることは評価に値する。
		0	1	2	3	13) 教育課程の評価体制が整備されている	教育課程の評価システムが明記されている。	教育課程の評価は教務会・自己点検自己評価委員会、運営委員会がある。また、平成30年度から学校関係者評価委員会を実施している。このように各関係者から意見を収集し、自己評価結果も踏まえて、教育目的・目的・目標を達成するための評価を行っている。 令和2年度までの学校関係者評価委員は、当時の卒業生（教育に対する知見のある人）・当時の教職員に限定されていた。多角的に学校教育を評価してもらうためには、当該に限定せず、JCHO関連機関で教職に対する知見を有する人、学校・教職員職にある人に変更する方がよいと考えたため、令和3年度に学校関係者評価委員会の構成メンバーの基準を見直し、JCHO以外の外部の学校からの教職員を招き、単年度意見を聞いた。今年度も松下看護専門学校に委員をお願いした。 学校関係者評価委員会は月に1回、評価委員会を開催する予定で、次年度の調査を明確化している。評価における倫理的配慮に関しては、個人情報保護規定および個人情報保護方針を策定しホームページにも記載している。また学校評価規定もあり倫理的配慮が明記されている。 今まで教務会議の中で、各々の委員会や課外活動、学年評価等について行っていたが、次年度4月より、カリキュラム会議を年間的に実施するように教務会が決定した。そのため、4月に計画の会議、8月に前期のカリキュラム会議、2〜3月に後期のカリキュラム会議を実施する予定である。そうすることで、つながりもわかり、俯瞰することが可能となり、よりよい評価が可能になると考えられる。	0	1	2	3	資料の「教育課程の評価システム」と学校の会議規程に相違がある。「学務会」の位置づけが明記されていないが評価システムにはカリキュラム会議の位置づけが見えづらい。

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校の自己評価および学校関係者評価結果

2025年度（令和7年度）評価

【評価尺度】0:当てはまらない 1:一部当てはまる 2:概ね当てはまる 3:十分に当てはまる
2025年度（令和7年度）

大項目	中項目	評価尺度				評価内容	評価視点	自己評価(概要・今後の課題)	学校関係者評価委員の評価					
		0	1	2	3				0	1	2	3		
III 教授・学習・評価過程	11.授業の展開過程	0	1	2	3	23) 学生のレディネスに応じた授業内容・教授方法を選択している	授業案の検討会を開催している。 指導・助言を授業案に活かしている。 授業前後に評価を実施し、授業案に活かしている。	週1回以上の教務会を実施し、その中で特に演習や技術試験は必ず授業案の検討を実施している。特に講義の中での事例などは全体の事例を把握し学習段階を考え検討している。また、再試験の多い演習（看護統合演習Ⅰ・Ⅱ）に關しても、授業内容、評価案の検討を教務会議で行い授業に活かしている。また、昨年度授業研究を全員が行っており、その評価・課題をもち、今年度の授業をすすめた。今年度も教員全員が授業研究をし、課題を導きだしているため次年度にも活かす予定である。	0	1	2	3	他教員が同じように評価できるのか、評価の視点があつてよい(2)と同様)	
	12.評価の計画性	0	1	2	3	24) 授業についての評価計画がある(授業・臨床実習)	講義・実習ともに終了時に科目の授業アンケートを学生から実施しているため、問題ない評価している。しかし、授業評価アンケートを紙での配布をなくしたことで、回収率が下がっており、今年度も回収率を上げるために、学科担当から働きかけを行う必要があつた。他の専門学校や大学より回収率は高いが、今後の課題でもある。そのためアンケートの時間の確保や結果反映の伝達などを行い、アンケートを実施する意義があるように働きかけが重要と考えた。	専任教員の授業科目においては、教員の自己評価を行った上で、学生の授業アンケート結果も用いて授業評価を行っている。専任教員以外の外部講師にも可能である講師からは授業評価をうけることができる。 内部兼務の講師に関しては、役割分担として講義していることもあり、多くのコマ数を担当していないため、授業後に口頭で意見を聞いて必要時、授業に反映できるように調整している。また、教育を専門にしているわけではないため、授業アンケートでの評価からの自己評価は負担だと意見があり、話し合った結果、それらに関しては教員が結果を確認した上で相談・検討するようにしている。学生には、授業アンケートを建設的に認容するようにリアクションしている。 今年度は授業アンケートの回収率が悪かつたため、アンケート結果の集計が遅くなり、タイムリーな評価ができていなかった。今後に課題である。	看護技術の実技試験や実習評価に対しては教務会で評価している。実習評価では臨床教務会で評価結果を伝え、臨床からも実習評価の意見を聞いている。また、単位認定会議においても再試験が多い科目の評価に関して指導をうけることもあり、その意見をきながら評価を改善に向けて動いている。	0	1	2	3	アンケートは何のためにするのか、目的を知ることで学生に動機づけすることが大切(学生も授業に参加しお互いで学習していく) 次年度、またはその後の授業に生かすために早期に評価が必要。 実習については、学生教育委員会でも実習成果、指導の内容について評価し、課題を見出し、一臨床へのフィードバックを早期にさせていただくことで効果的な臨床実習につながる。
III 教授・学習・評価過程	13.評価の妥当性、公平性	0	1	2	3	25) 成績評価、修了認定基準を明確化し、評価について公平性、妥当性が保たれている	学生の授業評価・教員の自己評価・テスト評価を検討する場がある。 授業評価を教育課程編成及び教育方法に活かしている。	教員で構成する教務会議が検討し、翌年の授業内容・方法の見直しにつなげている。授業アンケート結果の評価を参考に次年度に活かそうとしている。実習については、学生教育委員会で実習成果、指導の内容について評価し、課題を見出し、改善に向けて動いている。	学生実習 学期の第6章 第29条に授業科目の評価、修了の認定に関して記載している。科目の評価に関してはシラバスに評価の方法を記載しており、実習に関しては全領域、ルーブリックを用いていることを実習要綱に記載している。ルーブリックは学生の姿が基準であり、4となるための学生像が明文化されているため、自己教育力を育むことができる。 また、評価時においては、以前は学番号と結果のみで提示していたが、点数と学年全体のグラフ(人数を記載したもの)を渡すことで、自分がどの位置にいるかを理解でき、自己評価することで課題を明確にできるように変更している。またこれは、個人情報保護することにも繋がると考えている。	0	1	2	3	教務会議で評価・見直しを行う。
	14.管理者の経営方針の明確化	0	1	2	3	26) 管理者が学校運営の考え方を明確にしている	管理者が中長期の将来展望を示し、学校運営の方針を周知させている。	中長期の将来展望が2024年度～新たに明文化し、教員に周知している。その中長期目標や学校関係者評価の課題から学校目標を設定し取り組んでいる。	0	1	2	3	組織図、役割定義書があるが役割の周知をするために教員役割一覧表により具体的な行動基準があらわになり動きやすいのでは。	
IV 組織・管理運営	(1)組織体制の明確化	0	1	2	3	27) 自校の組織図がある	教育活動が機能するよう組織図がある。 役割定義書がある。 職員に周知している。	自校の組織図があり便覧にも掲載している。また随時見直ししており、組織図に実習調整者を入れ、役割・責任を明確にしている。細則第24条～33条に、学校運営の基本原則や教職員の役割を明確化して便覧に記載し教職員および学生に周知している。	0	1	2	3		
	(2)意思決定機関、システムの明確化	0	1	2	3	28) 学校運営に関する会議の目的が明確化されている	各種会議の目的、構成員、開催時期が明記されている。	各種会議の目的、開催時期を明記し作成している。今年度もその規程に則り行い問題ない。	0	1	2	3		
IV 組織・管理運営	(3)教職員の任用の考え方	0	1	2	3	29) 各種会議の議事録は適切に管理されている	議事録は文書管理規定及び個人情報保護法に基づいて管理されている。	事務関連の書類については、独立行政法人地域医療機能推進機構法人文書管理規定第19条に基づき作成している。 永久保存の対象は、学務簿・入試問題の原本、卒業証明書発行控え、入学試験判定履歴として、会議録はファイルし、決められた場所へ保管し一覧表を作成している。教務会議の議事録の保存期間も独立行政法人地域医療機能推進機構法人文書管理規定を参考にしながら、保存期間を定め、表にし、いつでもだれも確認できるようにしている。	0	1	2	3		
	(4)災害など非常時の危機管理体制の整備	0	1	2	3	30) 教職員の任用の考え方が明確化されている	教職員の任用基準が明文化されている。(採用基準・人数等) 任用基準を遵守した配置となっている。	教職員の任用基準が明文化されており、それに基づき、人数が配置されている。今まで専任教員が最低基準の8名であったが、昨年度より1名増員となり、今年度9名である。また、派遣で教務事務が1名おり、任用基準を遵守した配置となっている。	0	1	2	3		
IV 組織・管理運営	(4)災害など非常時の危機管理体制の整備	0	1	2	3	31) 危機管理マニュアルを作成している	危機のレベルに応じた教職員や学生の行動は便覧に記載している。また、教務室内のホワイトボードに、その日の災害発生時の責任者や避難誘導などわかるようにし、早出の教員が確認・変更するようにしている。 看護管理者に必要な災害対策の研修(日本看護協会主催)に教員1名が参加した時に、災害別としてのマニュアルは必要なく、ただし学生の安否確認は、学校側が行う必要があることを確認した。大阪病院内「安否確認アプリ」を学生も使用できるようにして、管理者として教務主任が登録されており、そこに防災担当教員も管理できるようにお願いし、今年度体制を整えた。次年度より、これを学校の災害訓練時に活用し、実際に活用できるように訓練をする予定である。	危機のレベルに応じた教職員や学生の行動は便覧に記載している。また、教務室内のホワイトボードに、その日の災害発生時の責任者や避難誘導などわかるようにし、早出の教員が確認・変更するようにしている。 看護管理者に必要な災害対策の研修(日本看護協会主催)に教員1名が参加した時に、災害別としてのマニュアルは必要なく、ただし学生の安否確認は、学校側が行う必要があることを確認した。大阪病院内「安否確認アプリ」を学生も使用できるようにして、管理者として教務主任が登録されており、そこに防災担当教員も管理できるようにお願いし、今年度体制を整えた。次年度より、これを学校の災害訓練時に活用し、実際に活用できるように訓練をする予定である。	0	1	2	3	訓練を2回実施し課題を見出している。災害時教員の指示で動くのか自分自身で行動できるようにフローがあると良い。	
	(4)災害など非常時の危機管理体制の整備	0	1	2	3	31) 危機管理マニュアルを作成している	災害訓練は例年1～2回実施するように企画運営しており、2025年度は4月に1回火災訓練、9月の大阪880万人訓練を活用し訓練を行った。 防災担当教員が学生が主体的に動く訓練を目標として実施し、学生が観察者となり評価する仕組みを作っている。 現在大阪病院内の訓練に患者役として参加しているが、大阪病院内で多くの期間学生が実習をしているより実践に即し、実習時の訓練なども想定し災害時にどう学生が動くのか等、学生や教員が参加する訓練を次年度企画し、実習時の体制整備を行っていくことが課題である。また、災害時の学生の応援や病院が学校に依頼してくる組織づくりも検討していく。	災害訓練は例年1～2回実施するように企画運営しており、2025年度は4月に1回火災訓練、9月の大阪880万人訓練を活用し訓練を行った。 防災担当教員が学生が主体的に動く訓練を目標として実施し、学生が観察者となり評価する仕組みを作っている。 現在大阪病院内の訓練に患者役として参加しているが、大阪病院内で多くの期間学生が実習をしているより実践に即し、実習時の訓練なども想定し災害時にどう学生が動くのか等、学生や教員が参加する訓練を次年度企画し、実習時の体制整備を行っていくことが課題である。また、災害時の学生の応援や病院が学校に依頼してくる組織づくりも検討していく。	0	1	2	3	OSをどのように入試につなげるのか、当校の強みは何か、OSにきた学生層や何を知らなくては来てくれるのか、分析を行い他校との差別化を行う。 アンケート内容として取らなかつたインターネットとあるがそこで止まらず、Instagramなのかホームページなのかマイナビなのかに興味を持ったきっかけ→学校の「何」に興味を持ったか、ホームページやパンフレットの媒体ではなく中身の編	

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校の自己評価および学校関係者評価結果

2025年度（令和7年度）評価

【評価尺度】0:当てはまらない 1:一部当てはまる 2:概ね当てはまる 3:十分に当てはまる

2024年度（令和7年）

大項目	中項目	評価尺度				評価内容	評価視点	自己評価(概要・今後の課題)	学校関係者評価委員の評価				
		0	1	2	3				0	1	2	3	
16. 財政基盤		0	1	2	3	看護教育の質の向上を目指した財政基盤の考え方が示されている	看護学校は受験者数の減少は、財政に影響するので受験者数の増加に努める必要がある。その課題を受けて受験者数の増加のため、今年度もオープンスクールを在校生に協力してもらい充実させている。また、今年度オープンスクールとしていたが、スクールとなると高校のイメージがあったり、授業でヒト件数が増えるため、オープンキャンパスと変えた。インスタグラムはフォロー者数も700以上となり目標は達成、ホームページの更新、進学ガイダンスは20件を目標に積極的に参加している。一般入試の後期を満了し、応募者は全体ではほぼ維持もしくはやや減少である。今後どのように受験生を獲得するのか現在検討している。	専門実践教育訓練課の申請をし、14期生より活用できることとなったため、より一層、広報活動を行い、社会人の受験者数が増えることを期待したい。	0	1	2	3	
						財政に関する課題が明確である。	専門実践教育訓練課の申請をし、14期生より活用できることとなったため、より一層、広報活動を行い、社会人の受験者数が増えることを期待したい。	0	1	2	3		
17. 施設設備の整備		0	1	2	3	看護の専門職教育に必要な整備が立案し、計画的に実施している。	オンライン授業ができる体制を体育館や視聴覚室にも有線を整備し活用した。COVID-19感染予防のため、密を防ぐため使用していない化学実験室をシミュレーション室へ変更し、調理室も在宅シミュレーション室へ変更した。また、2階のトイレをトイレに変更。視聴覚室の漏水による汚れや機械の取り換えと浸水予防を行った。また、学習環境を整えるため視聴覚室のプロジェクターの設置、3学年教室の天吊りプロジェクターの設置、体育館の換気扇の取り換え、トイレの洋式化、防水対策の工事を行った。昨年度は体育館のファンコイルが破損し水漏れを起したため修理を行い、その影響で視聴覚室の天井の装替えを行った。今年度は体育館のカーテンレール修理および学校非常用ドアが閉鎖が壊かかったため修理した。また、教室の温度にムラがあったため、ファンを購入し設置している。今後の予定は在宅室の畳をえたり図書室の絨毯の装替えを長期的に計画していく予定である。	校舎は安全な環境になっている。(耐震・アスベスト等)	確認した結果、耐震・アスベスト等の問題はなく、安全な環境である。	0	1	2	3
						学習しやすいアメニティを整備している。	学習しやすいアメニティとしては、狭い机、硬い椅子であったものを新調している。これはグループワークなどで、机を自由に配置、変更できるようにコマのついた机とした。またアクティブブルーニングを行うために、水性マジックや後進紙、ポストイットなどを完備している。また、教室前に熱湯が沸かせるようにポット、図書室前に電卓を配置し学生の生活環境を整えている。また、図書管理システムも導入し活用するよう動いている。IT環境については、Wi-Fiはどこでも自由に活用できMicrosoft teamsの学習支援システムを活用し、円滑な学習活動が可能となるよう配慮している。	同時に、実習室、演習室においては臨地実習を想定した設備・物品を整備（押付が閉鎖された時に頂上のごとより充実）し、実践的な学習が可能な環境を整えている。加えて、教員への相談体制や学習支援体制も整備されており、心理的にも安心して学習できる環境づくりに努めている。	0	1	2	3	
18. 学生生活の支援体制		0	1	2	3	経済面において、適切な社会資源の情報提供と相談システムがある。	講師の声の小さく聞こえづらいなどが授業アンケート結果からもわかり、教室にピンマイクと拡声器を購入し導入し、授業内容を聞き取りやすいように変更した。また、3階のトイレをトイレに変更し、水漏れや機械の取り換えと浸水予防を行った。また、学習環境を整えるため視聴覚室のプロジェクターの設置、3学年教室の天吊りプロジェクターの設置、体育館の換気扇の取り換え、トイレの洋式化、防水対策の工事を行った。昨年度は体育館のファンコイルが破損し水漏れを起したため修理を行い、その影響で視聴覚室の天井の装替えを行った。今年度は体育館のカーテンレール修理および学校非常用ドアが閉鎖が壊かかったため修理した。また、教室の温度にムラがあったため、ファンを購入し設置している。今後の予定は在宅室の畳をえたり図書室の絨毯の装替えを長期的に計画していく予定である。	多様な教育方法を実現するための施設設備を創意工夫している。	地域・在宅での講義を充実させるために、株式会社トーカイに介護福祉用具をレンタルし授業のリアリティを追求している。経済面や最新の福祉用具を利用できることで効果的である。株式会社トーカイの方が福祉用具の使い方を実習室で説明し、学生が実際に使用する体験ができた。また、平日の空きを有効に活用し、介護用具の体験ができるようになっている。	0	1	2	3
						学生寮設置など生活環境支えの整備がされている。	病棟の職員寮がおおよそ各学年3室程度であったが、今年度、それを各学年5室になりように大阪病院に依頼し15室確保していただいた。昨年までは寮は数室と広報していたが、約5室と広報できるにもかかわらず、地方からの受験生もや増えている。	単位の認定制度は整備されており、入学後すぐに認定が完了するように、事前に申請ができるようになり、概ね大半などの学生は活用している。	0	1	2	3	
19. 学生の健康管理体制		0	1	2	3	学修継続へのサポートシステムがある。	チューター制度を実施しているため、担当教員が面談し学習の動機づけを実施している。	学修困難者へのサポートシステムがある。	学修困難者へのサポートシステムがある。	0	1	2	3
						社会的活動(ボランティア、自治会活動等)への助言、支援窓口がある。	社会的活動への助言、支援窓口は教務部として、大阪病院のボランティアには参加している。外部には授業（地域で暮らす人の理解、小児看護学概論）の中で全員ボランティアに参加するように働きかけを行っている。それにより、興味を持った学生もいたようである。翌年、学校祭で残ったお餅を寄付する催しがあった。1年度にボランティアが行ったことも後援して行う予定と学生発信で申し出があったことからボランティア精神は高まったのではないかと考える。	また、今年度は地域支援として、小学校の研修を教員と学生、大阪病院の職員とともに実施できるようにになり、今年度は小学校の6年生および教職員に対しBSL研修を令和8年10月10日に行う予定である。	0	1	2	3	
20. 教育活動に関する関係者への情報提供		0	1	2	3	関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	0	1	2	3	
						必要時、関係者との連携・協力体制がある。	必要時、関係者との連携・協力体制がある。	必要時、関係者との連携・協力体制がある。	0	1	2	3	
21. 将来構想		0	1	2	3	中・長期的な将来構想が明確化されている。	中・長期的な将来構想が明確化されている。	中・長期的な将来構想が明確化されている。	0	1	2	3	
						関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	関係者等に、定期的な情報提供を行う計画があり、実施している。	0	1	2	3	

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪府病院附属看護専門学校の自己評価および学校関係者評価結果

2025年度（令和7年度）評価

【評価尺度】0：当てはまらない 1：一部当てはまる 2：概ね当てはまる 3：十分に当てはまる
2025年度（令和7年）

大項目	中項目	評価尺度				評価内容	評価視点	自己評価(概要・今後の課題)	学校関係者評価委員の評価			
		0	1	2	3				0	1	2	3
Ⅱ	22.学校の自己点検・自己評価体制	0	1	2	3	38) 自己点検・自己評価の組織的に取り組む体制が整えられている	<p>毎年度の運営評価が将来構想に活用されている。</p> <p>評価委員会の組織が設置されている。</p> <p>評価委員会の要綱がある。</p> <p>評価の資料・データを整理するシステムがある。</p> <p>評価結果の公表に関するルールが明記され公表している。</p> <p>評価結果を学校運営にフィードバックするシステムもっている。</p>	<p>これまで、前年度の学校目標を評価し翌年度の目標に反映させている。今後、細かなデータ分析ができるようデータベースを整えながら、客観的な分析を行いながら実績を評価し改善していきたい。</p> <p>平成30年度に作成した「大阪府病院附属看護専門学校 学校関係者評価委員会規程」を一部見直し、(編纂)第3編を委員会は、次に掲げる地区から学校長が指名する委員により構成する。その中の(3)卒業生(教育に知見を有する者)(4)元当校教員という文言を、「卒業生」「当校の教員」と限定しないことで、JCHO関連病院・学校出身者にも委員の選出を広げることができるとしている。そこで評価の視点も広がると考え、今年度も、他の学校の教員を委員に招き評価をさせていただいている。</p> <p>各評価項目毎に関連する資料をファイリング、データで保管するようにしている。</p> <p>JCHO本部が作成した自己点検・自己評価、学校関係者評価のガイドラインに基づき評価結果を公表している。ホームページにも毎年掲載している。</p> <p>前年度実施した評価結果は文書で報告するとともに、教務会において検討事項を審議し、対策等を明らかにする体がある。今後は行っていることを明文化するために、アセスメントポリシーを策定し、アセスメントプランを明確化することが課題である。</p>	0	1	2	3
		0	1	2	3		<p>学校案内・募集要項がある。</p> <p>入学者選抜の方針を踏まえた入学試験実施要綱がある。</p> <p>入学試験実施要綱に沿って実施している。</p> <p>選抜方法の妥当性を評価し、次年度に活かしている。</p>	<p>毎年、検討・確認し入学案内および募集要項を作成している。紙媒体を最小限とし、多くはデータで送信している。送信が2500件以上及び、データでの送信により経費の節約にもなっており、現在のところ大きな問題はない。</p> <p>アドミッションポリシー(AP)やJCHO組織の病院も掲載した募集要項を作成している。学校案内・募集要項の見直しを毎年、実施している。</p> <p>入学試験の評価基準を入学後に評価し毎年確認の上、必要であれば見直しをしている。APに応じた評価基準を設定している。</p> <p>推薦入学試験のみ、受験科目を、必須科目(国語)と選択科目(英語Ⅰ・Ⅱもしくは数学Ⅰ・Ⅱ)とし推薦入試を受けやすくしている。選択科目に関しては、英語と数学の平均点の差が出る可能性を視野に入れ、事前に15点以上の場合には偏差値で調整するように決定しすべく対応できるようにしているが、今年度も問題なかった。</p> <p>応募者の確保のため、今年度は一般入試(後期)を導入した。これは大学入試の滑り止めとして受ける学生を狙ったものであるため大学の入試時期を分析し、1月31日と設定した。また、科目は受けやすくするため国語と面接のみとした。</p> <p>全体的な受験の時期は大阪府の看護学校の入試時期を分析し、概ね昨年度の日程で問題ないと考えた。</p> <p>応募者の結果、昨年度より人数は減少した。次年度も獲得に向けて入試選抜方法を検討していく。現在考えているのは総合選抜の導入および、科目数を減らすことも視野に入れており、運営会議で検討する予定である。</p>	0	1	2	3
Ⅴ	23.入学者の選抜の考え方	0	1	2	3	39) 選抜に対する考え方や方法が明確にされている	<p>入学試験実施要綱に沿って実施している。</p> <p>選抜方法の妥当性を評価し、次年度に活かしている。</p>	<p>推薦入学試験のみ、受験科目を、必須科目(国語)と選択科目(英語Ⅰ・Ⅱもしくは数学Ⅰ・Ⅱ)とし推薦入試を受けやすくしている。選択科目に関しては、英語と数学の平均点の差が出る可能性を視野に入れ、事前に15点以上の場合には偏差値で調整するように決定しすべく対応できるようにしているが、今年度も問題なかった。</p> <p>応募者の確保のため、今年度は一般入試(後期)を導入した。これは大学入試の滑り止めとして受ける学生を狙ったものであるため大学の入試時期を分析し、1月31日と設定した。また、科目は受けやすくするため国語と面接のみとした。</p> <p>全体的な受験の時期は大阪府の看護学校の入試時期を分析し、概ね昨年度の日程で問題ないと考えた。</p> <p>応募者の結果、昨年度より人数は減少した。次年度も獲得に向けて入試選抜方法を検討していく。現在考えているのは総合選抜の導入および、科目数を減らすことも視野に入れており、運営会議で検討する予定である。</p>	0	1	2	3
		0	1	2	3		<p>高等学校や各種会場での学校説明会への参加を大いに活用している。</p> <p>応募者のニーズに応じた多様な募集形態や学校説明会を開催している。</p> <p>中・高校生は総合学習等の受け入れは、積極的である。</p> <p>応募倍率が自定で定めた基準を下回らない。</p>	<p>今年度よりオープンスタールという名で行っていたが、検察率が落ちることをふまえてオープンキャンパスに変え広報活動を行っている。</p> <p>広報担当教員をつくり、オープンキャンパス担当、IP担当、インスタグラムなどのSNS担当などと分け、役割を明確にしている。そこで、受験生獲得にむけて、最新情報を意識しホームページを刷新したり、インスタグラムに関しては概ね1回以上の投稿ができ、フォロワー数も700人を超えている(目標650人であった)。また、本校は駅から遠く、送迎が難しいため、今年度は各校から学校への行き方の動画を制作し投稿している。</p> <p>その他、マイナビ進学およびベスト進学ネットと契約し、広報活動を実施した。また学校案内もマイナビ進学に掲載している。在校生は給費式で話し、あじこ様のように働きかけている。次年度の業者に関しては評価を行い、再度マイナビ、ベスト進学を併用することに決定している。また、今年度は資料請求者のデータを活用し、オープンキャンパス前にはショートメールを配信し参加の受け付けをしたり、推薦入試前にもメールを送った。</p> <p>他社が企画する進学相談会には可能な限り出席し広報活動を行った。そのときに高校の先生への学校説明会や、様々な場での広報活動も行った。また、様々な場での広報活動も行った。また、様々な場での広報活動も行った。また、様々な場での広報活動も行った。</p> <p>夏のオープンスタールの開催は、土曜日や夕方にも開催することで、参加数を増やす取り組みをとり、今年度は3月が今年度最後であり、昨年度から減少している。今後、在校生・後援者や説明会などについて働きかけ、魅力を伝えられるように、社会人向けや新卒者向けなど対応別のオープンキャンパスにするなど工夫していくことが課題である。</p> <p>募集形態に関しては、一般入試の後期を導入した。次年度は総合選抜入試や科目の検討も行う予定であり、対象を広げる努力をしている。</p> <p>今年度、近隣の中学校からの看護学校の職業体験の依頼があり3名の生徒を積極的に受け入れた。</p> <p>応募者の数は、令和7年度の応募者はやや減少している。定めた目標である「受験者が維持できる」は残念ながら達成はしなかった。今後の課題は受験者の確保である。オープンキャンパスを工夫し受験率に繋げることも、入試形態・日程の検討をしていく。入学後はすべての学生が全員やりがいをもって学習をすすめ、卒業できるように、体運学、留年率も減少させる必要がある。</p>	0	1	2	3
Ⅴ	24.広報活動	0	1	2	3	40) 応募者の確保に努力している	<p>高等学校や各種会場での学校説明会への参加を大いに活用している。</p> <p>応募者のニーズに応じた多様な募集形態や学校説明会を開催している。</p> <p>中・高校生は総合学習等の受け入れは、積極的である。</p> <p>応募倍率が自定で定めた基準を下回らない。</p>	<p>今年度よりオープンスタールという名で行っていたが、検察率が落ちることをふまえてオープンキャンパスに変え広報活動を行っている。</p> <p>広報担当教員をつくり、オープンキャンパス担当、IP担当、インスタグラムなどのSNS担当などと分け、役割を明確にしている。そこで、受験生獲得にむけて、最新情報を意識しホームページを刷新したり、インスタグラムに関しては概ね1回以上の投稿ができ、フォロワー数も700人を超えている(目標650人であった)。また、本校は駅から遠く、送迎が難しいため、今年度は各校から学校への行き方の動画を制作し投稿している。</p> <p>その他、マイナビ進学およびベスト進学ネットと契約し、広報活動を実施した。また学校案内もマイナビ進学に掲載している。在校生は給費式で話し、あじこ様のように働きかけている。次年度の業者に関しては評価を行い、再度マイナビ、ベスト進学を併用することに決定している。また、今年度は資料請求者のデータを活用し、オープンキャンパス前にはショートメールを配信し参加の受け付けをしたり、推薦入試前にもメールを送った。</p> <p>他社が企画する進学相談会には可能な限り出席し広報活動を行った。そのときに高校の先生への学校説明会や、様々な場での広報活動も行った。また、様々な場での広報活動も行った。また、様々な場での広報活動も行った。</p> <p>夏のオープンスタールの開催は、土曜日や夕方にも開催することで、参加数を増やす取り組みをとり、今年度は3月が今年度最後であり、昨年度から減少している。今後、在校生・後援者や説明会などについて働きかけ、魅力を伝えられるように、社会人向けや新卒者向けなど対応別のオープンキャンパスにするなど工夫していくことが課題である。</p> <p>募集形態に関しては、一般入試の後期を導入した。次年度は総合選抜入試や科目の検討も行う予定であり、対象を広げる努力をしている。</p> <p>今年度、近隣の中学校からの看護学校の職業体験の依頼があり3名の生徒を積極的に受け入れた。</p> <p>応募者の数は、令和7年度の応募者はやや減少している。定めた目標である「受験者が維持できる」は残念ながら達成はしなかった。今後の課題は受験者の確保である。オープンキャンパスを工夫し受験率に繋げることも、入試形態・日程の検討をしていく。入学後はすべての学生が全員やりがいをもって学習をすすめ、卒業できるように、体運学、留年率も減少させる必要がある。</p>	0	1	2	3
		0	1	2	3		<p>卒業時の「看護技術の到達水準」を集計・分析し、今後の課題を明確にしている。</p> <p>教育理念・教育目標に照らし、卒業時の到達状況を分析的に捉えている。</p> <p>国家試験の合格率が全国平均を上回っており、開示している。</p> <p>到達状況の評価を運営会議・講師会に報告し教育理念・目的・目標、授業に活用している。</p> <p>卒業時の進路選択に対して相談に応じ、キャリアを含めた人生設計を考える時間を設けている。</p> <p>進学、就職に関して支援体制が整っている。</p> <p>JCHO病院への就職率が就職者中80%程度を下回らない。</p>	<p>看護技術到達の集計を夏休み中に中間評価として実施させ、後期での到達を意識できるように働きかけている。また、1年生から学年終了時には看護技術到達の記述を行うことで、自身の課題を意識させるようにしてきた。3年間の到達を確認し、結果を多くの学生が就職する大阪府の学生教育委員会に報告し、技術到達状況を知っていただくとともに、新入教育に活かせるように提示している。</p> <p>また、到達水準を確認し、到達していない学生に対しては作成した事例を元に学内で実施させ、学内での実施にはなるが、技術が到達できるように取り組んでいる。昨年度と比較し、未到達者の延べ人数では概ね40名増加しており、実施ができていない機会が広がっていると考え、新入りに変更し病院から地域に出ることも多く、病院で行う実践機会が減少していることも考えられる。技術が経験できる病棟配置をさらに検討することや、病院がどのように結果を活用しているかの確認が必要であると考える。</p> <p>昨年年度国家試験合格者は100%であり、合格率は全国平均を毎年上回っている。全国との比較のグラフをつくり開示している。在校生は給費式で話し、あじこ様のように働きかけている。過去10年間国家試験合格率99.7%は入学案内に記載し、進学ガイダンス等で過去65年度の合格率も過去10年間の卒業生の国家試験結果の自己採点をみると必修の最低点は42点、一般・状況の最低点は17.6点であったため、問題なく全員合格していると考えている。</p> <p>卒業時到達状況の評価し、結果を運営会議で報告をしている。講師会は行っていないが、適宜講師には状況を提示し学生の授業アンケート結果をもとに働きかけを行っている。講師会については以前実施を試みたが出席率が低く開催には至らなかった。そのため、授業の前後で意見を聞くこととしている。評価結果から目的・目標を照らし合わせ問題がないことを確認している。</p> <p>1年次に新カリキュラムで「キャリアデザイン」という科目をたて、キャリアを含めた人生設計を考える時間を設けている。また、2年次には外部業者2社と調整を行い、協力を得て就職および履歴書の書き方、面接に関するガイダンスを3月、及び模範の個別面接を3月に全員実施していただき、キャリアおよび就職支援をしている。また、チューター制度を活用しチューター教員が個別面接を行うことで、学生のキャリア意識を高め、JCHOの就職の魅力を伝える。より学生個々に合わせたアドバイスを行うことで、その学生にあった就職先を考えられるように支援している。加えて、履歴書などの確認・指導、必要時(緊要の強い学生や、論理的対応ができない学生に対し)個別面接を追加で行っている。</p> <p>以上の取り組みを行っているが、大阪府院で就職試験に不合格となる学生が今年度若干名いた。どのような試験であったのか意向、原因分析を行い、不合格後面接をし、新たな就職先をJCHO病院をふまえて共に考え、学生に意向に沿いながら支援している。大阪府院が不合格であった者も、JCHOの他病院へ就職している。</p> <p>現3年生に関しては結果、JCHO関連病院への就職率および大阪府の就職率ともに80%以上のため目標は達成した。</p> <p>また、進学者に対しては、例年チューターが相談および履歴書の確認や小論文の添削を行い支援を行っているが、今年度は進学者がいなかった。</p> <p>奨学金の目的や返還義務については給付申請時に説明している。また、今年度は卒業前にも全員に返還について説明している。他病院に行く学生には大阪府院の奨学金担当者より一括返還について説明をしきちんと返還するように働きかけている。</p>	0	1	2	3
Ⅵ	26.教育理念・教育目的と進路選択の状況との整合性	0	1	2	3	42) 進学、就職に関して支援体制が整っている	<p>卒業時の進路選択に対して相談に応じ、キャリアを含めた人生設計を考える時間を設けている。</p> <p>進学、就職に関して支援体制が整っている。</p> <p>JCHO病院への就職率が就職者中80%程度を下回らない。</p>	<p>1年次に新カリキュラムで「キャリアデザイン」という科目をたて、キャリアを含めた人生設計を考える時間を設けている。また、2年次には外部業者2社と調整を行い、協力を得て就職および履歴書の書き方、面接に関するガイダンスを3月、及び模範の個別面接を3月に全員実施していただき、キャリアおよび就職支援をしている。また、チューター制度を活用しチューター教員が個別面接を行うことで、学生のキャリア意識を高め、JCHOの就職の魅力を伝える。より学生個々に合わせたアドバイスを行うことで、その学生にあった就職先を考えられるように支援している。加えて、履歴書などの確認・指導、必要時(緊要の強い学生や、論理的対応ができない学生に対し)個別面接を追加で行っている。</p> <p>以上の取り組みを行っているが、大阪府院で就職試験に不合格となる学生が今年度若干名いた。どのような試験であったのか意向、原因分析を行い、不合格後面接をし、新たな就職先をJCHO病院をふまえて共に考え、学生に意向に沿いながら支援している。大阪府院が不合格であった者も、JCHOの他病院へ就職している。</p> <p>現3年生に関しては結果、JCHO関連病院への就職率および大阪府の就職率ともに80%以上のため目標は達成した。</p> <p>また、進学者に対しては、例年チューターが相談および履歴書の確認や小論文の添削を行い支援を行っているが、今年度は進学者がいなかった。</p> <p>奨学金の目的や返還義務については給付申請時に説明している。また、今年度は卒業前にも全員に返還について説明している。他病院に行く学生には大阪府院の奨学金担当者より一括返還について説明をしきちんと返還するように働きかけている。</p>	0	1	2	3
		0	1	2	3		<p>大阪府院の就職者については、何かあれば看護部と連携し情報を得たり情報提供もしている。また、実習時にも、卒業生と教員は関わりを持ち、活動状況を把握したり相談にも応じている。就職後の活動状況の把握は、他院からのハガキや、本校に送り書きをすることが多いが、どのような状況でも、学校側から他院へ就職した学生に対し、情報交換の場があったほうが良いため、今年度もストラスがかかるとして月に1回「カムフラッシュ」を企画、実施している。卒業生の状況の把握や情報交換の場として行ったり、模範生イベントも盛り込み、卒業生の状況を把握している。</p> <p>ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに住所変更時に届出を出してもらうフォームを作成して卒業生の状況を把握しており、卒業時にはその目的のコミュニケーションを実施している。時には、卒業生の声として即掲載など促し、本校の卒業生で活躍している方との連携をとり、講師依頼(国語看護等)をしている。</p>	0	1	2	3	
Ⅵ	27.卒業後の活動状況の把握	0	1	2	3	43) 卒業後の活動状況について情報交換をしている	<p>大阪府院の就職者については、何かあれば看護部と連携し情報を得たり情報提供もしている。また、実習時にも、卒業生と教員は関わりを持ち、活動状況を把握したり相談にも応じている。就職後の活動状況の把握は、他院からのハガキや、本校に送り書きをすることが多いが、どのような状況でも、学校側から他院へ就職した学生に対し、情報交換の場があったほうが良いため、今年度もストラスがかかるとして月に1回「カムフラッシュ」を企画、実施している。卒業生の状況の把握や情報交換の場として行ったり、模範生イベントも盛り込み、卒業生の状況を把握している。</p> <p>ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに住所変更時に届出を出してもらうフォームを作成して卒業生の状況を把握しており、卒業時にはその目的のコミュニケーションを実施している。時には、卒業生の声として即掲載など促し、本校の卒業生で活躍している方との連携をとり、講師依頼(国語看護等)をしている。</p>	<p>大阪府院の就職者については、何かあれば看護部と連携し情報を得たり情報提供もしている。また、実習時にも、卒業生と教員は関わりを持ち、活動状況を把握したり相談にも応じている。就職後の活動状況の把握は、他院からのハガキや、本校に送り書きをすることが多いが、どのような状況でも、学校側から他院へ就職した学生に対し、情報交換の場があったほうが良いため、今年度もストラスがかかるとして月に1回「カムフラッシュ」を企画、実施している。卒業生の状況の把握や情報交換の場として行ったり、模範生イベントも盛り込み、卒業生の状況を把握している。</p> <p>ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに住所変更時に届出を出してもらうフォームを作成して卒業生の状況を把握しており、卒業時にはその目的のコミュニケーションを実施している。時には、卒業生の声として即掲載など促し、本校の卒業生で活躍している方との連携をとり、講師依頼(国語看護等)をしている。</p>	0	1	2	3
		0	1	2	3		<p>ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに住所変更時に届出を出してもらうフォームを作成して卒業生の状況を把握しており、卒業時にはその目的のコミュニケーションを実施している。時には、卒業生の声として即掲載など促し、本校の卒業生で活躍している方との連携をとり、講師依頼(国語看護等)をしている。</p>	<p>ホームページには、「卒業生の方へ」の中の同窓会のページに住所変更時に届出を出してもらうフォームを作成して卒業生の状況を把握しており、卒業時にはその目的のコミュニケーションを実施している。時には、卒業生の声として即掲載など促し、本校の卒業生で活躍している方との連携をとり、講師依頼(国語看護等)をしている。</p>	0	1	2	3

